
正義の味方は極悪人！？

鷹嶺綺羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正義の味方は極悪人！？

【Nコード】

N6878C

【作者名】

鷹嶺綺羅

【あらすじ】

正義の味方を夢見る少年は、いつしか己の正義のために全てを敵に回す！……なお、本作品は「美奈子ちゃんの憂鬱」シリーズとは全く別ストーリーです。念のため。

第一話 正義の味方、見参！

俺は霧島洋介きりしま・ようすけ

一介の、単なる元・高校生。

元というのは、俺が今年の春、高校を卒業したからだ。
卒業しても、心は熱血高校生のまま。

だから、高校生だ。

同級生に言わせると、俺のような存在を、プーとかニートとかいうらしい。

社会的特権がある存在
そういう意味だ。

そんな俺の夢は英雄。

かっこいい戦闘服に身を包み、ロボットに乗って悪と闘う。

だから、俺がバイトしたのも、こういう仕事。

遊戯施設のステージで悪と戦う仕事。

子供達の前で悪と戦う。

それは子供達にすばらしい夢を与える最高の仕事だ。

だから俺はこのバイトに身を投じた。

それは、漢の義務だから。

最初の説明会の時、俺は念願の、というか、居並ぶバイト仲間を力でねじ伏せ、英雄の中の英雄、ザンバルファイブのレッドの地位を手に入れた。

漢は頭じゃねえ。

漢は腕力だ！

逆らう奴は女子供でも許しやしねえ！

文句のあるヤツあでてこいや！

……よし。いないな。

「りはーさる」とかいう数度の組み手の後、俺とすばらしき仲間
はステージという戦場に立った。

初めての戦場は、ベニアに書かれた荒野をバックに、子供達が十
重二十重に見守る世界。

場をいやでも盛り上げるテーマソングに乗り、俺は次々と出てく
る雑魚どもと戦った。

オラオラ！！

これは組み手じゃねえぞ！
実戦なんだよ！

メキッ！

グシヤッ！

ボキイイイッ！

俺は、たとえ雑魚といえども渾身の力を込め、敵を粉碎していった。

「ぐわあああっ！」

「骨が、骨があああっ！」

飛び散る血。

雑魚の無様な悲鳴と、骨肉の碎ける音がステージを支配し、

そして――

出てきたな！？怪人め！

「あーんっ！パパア！怖いよお！」

「ママあ！おうち帰るう！」

見ろ！お前があまりに醜い形相してるから、子供がおびえてるじゃねえか！

ん？

てめえまで一緒におびえてるんじゃないやねえ！

黙って俺様の正義の鉄拳を、喰らいやがれっ！

俺は、レッドの必殺技「レッドバーニングスマッシュ」を熊の怪人の顔面へお見舞いしてやった。

怪人は俺の、そしてレッドの正義の一撃を喰らい、観客席まで無様に吹き飛ぶ。

ふっ。

正義は勝つんだ！！

「警察だ警察！」

「あーんっ！お母さん！痛いよお！」

「○美しいっ！お願い目を開けてえっ！」

子供や親も、俺の活躍に希望を抱いたに違いない。
泣きじゃくりながら歓声を上げていた。

これぞ正義の仕事！

ステージでの熱い戦いの後、楽屋にもどった俺を、警官が10人ほど出迎えてくれた。

そうか。

国家権力ですら、俺の正義の活躍に感動したというのか？

ふっ……。

国家権力は嫌いだ、こういうのは悪くない。

俺はそのまま凱旋パーティーの待つであろう会場まで、パトカーに乗せられた。

ふふっ。

首相と握手する正義の味方

首相（名前知らね）、お前の再選は確定したぞ！

俺は近くの警察署に案内された。

そうか。

いろいろ準備もあるしな。

狭い部屋に入った俺に、むさ苦しい刑事が次々と質問してきた。

名前は？

住所は？

ふん。

これだから国家権力の犬は困る。

俺は正義の味方だ！

名前なんて関係ないのだよ！

刑事はこめかみの横で指をくるくるさせる不思議な動作の後、部屋を出ていった。

全く。俺は腹が減っているんだ。

首相とのパーティに遅れてしまうではないか。

しばらくすると、制服警官達が何人か入ってくるなり、俺に手錠をかけようとした。

しまった！

これは悪の組織の陰謀に違いない！

国家権力の犬に扮した悪の組織の手先が、俺を拉致しようとしているに違いない！

もし捕まれば洗脳され、俺は、レッドは――！！

仲間のためにも！

正義のためにも！

俺は負けられないんだよおっ！！

ウオオオオツ！

離せえ！

俺は悪の手先になんぞならないぞ！

ステージという戦場よりも過酷な戦いの火ぶたがきって落とされた。

俺は警察官に扮した雑魚の腰から拳銃を抜き取り、辺り構わず撃ちまくった。

応戦する雑魚の弾なんて怖くねえ！

おらあっ！殺ったらあ！！

「うわあああっ！助けてください！警部！警部う！」

「牧野！うおおおっ！」

「警部を助ける！撃てえっ！」

……無駄だ。

悪の手先の頭を撃ち砕き、どてっ腹に風穴をあけてやる。

……

どれくらいたったのだろう。

気がつくと、俺は山道を走っていた。

ボロボロになったレッドの戦闘服の上着を、俺は捨てた。

ナイロンというスーパージン素材がこれほどになるとは——
雑魚と侮っていた俺の未熟さだ。

こんな未熟な漢が、戦隊のリーダーをやるわけにはいかない。

俺は、やり直さなくてはならない。

丁度、山の中だ。

手にした拳銃に弾丸は——20発か。

よし。

どんな悪に襲われても、これだけあれば戦える。

俺は、山に籠もって、己を鍛え直すことにした。

『昨日、重軽傷者23名を出したショックで乱闘騒ぎの犯人は』

『警察署で発生した銃撃戦の犠牲者はこれで45人に上り』

『県警察本部は周辺の警察、自衛隊にも協力を要請し、犯人の山狩りを決定』

山道で出会ったハイカーに、俺の正義を見せつけるため一発お見舞いした時、ハイカーが

「どうぞお使い下さい」と置いていった登山道具の中から見つけたラジオでは、日本に悪がはびこっていることを知らせてきた。

だが——

俺は頬を伝う涙をぬぐうこともなく、星を見つめていた。

俺は弱い。

だから、強くなる。

強くなって、本物の戦隊リーダーにふさわしい漢になる。

みんな、それまで耐えてくれ——

修行の日々が始まった。

岩を砕き、木をなぎ倒し、獣と戦う毎日。

そして——

最後の弾丸で熊を倒した俺は、目の前をちらつく白い物体に気づいた。

雪？

そう。

道理で寒い訳だ。

世界は、白く染まろうとしていた。

そして、修行はさらに過酷になっていった。

何しろ、食べ物がない。

食べ物を探すこと自体が修行になった。

そう。

サバイバル訓練の開始だ。

ううつ。

訓練から10日後

俺はふらつく足で雪山を歩いていた。

何か、いい匂いがする。

何か金属が焦げるような匂いに混じって、肉が焼ける匂いだ。

？

不意に、俺の視界に銀色の建物が入ってきた。

建物？

違う。

船だ。

宇宙船だ！

そうか！

英雄を求め、ここまで来て力つきた難民船だな！？

なんてことだ……

未だにくすぶり続ける宇宙船の残骸からはい出てきたのは、ブタのように腫れ上がった顔。

大丈夫か！？

俺は思わず駆け寄った。

血は人間と同じ赤。

抱き寄せた俺の服も赤く染まる。

しかしろと肩を揺するが、うめくような声が何言っているのかわからない。

だが、きつと無念と助けを求める言葉に違いない。

そうか。

敵はうってやる。

安心して眠ってくれ——

敵は討つ。

俺は空にほえた。

ほえるだけほえた後、俺はこのブタオトコの始末をつけることにした。

そう。

俺の一部となって眠ってくれ。

丁度、ナイフやフライパンの替わりになる金属には事欠かないことだ。

ブタオトコよ。

俺の一部となって、俺の活躍を、見守ってくれ――

感想　ブタオトコは、美味かった。

そして俺は、この宇宙船の中で、地上では考えられない武器の数々を手に入れ、それを元に正義の味方として活躍することになる。

俺の、伝説の始まりだった。

第二話 巨大ロボット、唐突に出撃！

正義の味方の必需品

巨大ロボット

幸いなことに、宇宙船にはこれが一体だけ存在していた。

俺はこれに「仰天ロボ」と名付けた。

ちなみに宇宙船は「仰天号」だ（残念なことに、つぶれた船首にドリルはない）

そして、巨大ロボットを手に入れた悪への報復が始まった。

ラジオで聞いた「勝ち組」という悪の組織を退治すべく、俺は仰天ロボに乗り、悪の中枢「六本木ヒルズ」へ向かった。

途中、悪の組織の手先になった自衛隊の戦闘機に襲われたが、悪の手先が正義の巨大ロボに傷つけられる訳ねえだろ！

襲い来る戦闘機を次々となぎ倒し、俺は拾った日本地図片手に六本木へ向かった。

……いかん。夕日は東だから、今、俺は西に向かっていたんだな。えっと、東京だから南南っと。

『ホテル1撃墜されました！』

『ストレンジャー1、進路変更！このままでは東京に向かいます！』

『人間の高射砲連隊に迎撃許可を出せ！』

『墜落した戦闘機により、各地に甚大な被害が出ています！』

高速道路にそって飛んだのが幸いした。

東京まであと60キロ。

それは突然のことだった。

ガンッ！

仰天ロボを貫いた激震は、そのまま仰天ロボを高速道路へとたたきつけた。

事故で渋滞していた車がクッション代わりになってくれたおかげで仰天ロボに被害はない。

さすがは正義のロボだ！！

「誰か！誰か助けて！」

「救急車！誰か救急車を！」

「うわああああっ！俺の、俺の腕があああっ！」

「車に子供がああああっ！」

炎上する高速道路を挟んだ先。そこには黒い巨大ロボがいた。

醜悪な機体。

悪の組織の巨大ロボに違いない！

おのれ！

『——のパイロット！聞こえているな！？』

どこからか、声が聞こえてくる。

『ロボットのパイロット、聞こえているな！？』

おう！聞こえているぞ！

『貴様、どういふつもりだ！？そのロボットで東京に攻め込むとは！』

俺は正義を実行するだけだ！

悪は去れ！

『ここまで被害を出しておいて、何が正義だ！』

正義に犠牲はつきものだろう！？

『どこぞの大統領みたいなことぬかすな！正義の味方「トリプテック」が貴様を討つ！』

何！？

悪の組織が正義の味方を騙る？

許せん！

激情のままに、俺は仰天ロボで敵に殴りかかった。

オラアッ！

フックだボディだチンだアッパーだ！——ちいっ！やりやがったなあ！？

『そのセリフって……貴様、今いくつだ！？』

うるせえ！俺は花も恥じらう18歳だ！

『いくつごまかしている！？』

作者じゃねえんだ！

ピーチボーイの俺様をジジイと見間違えるたあ、どういうメンタマしてやる！

コクピットから引きずり出して、その目ん玉をえぐり出してやる！

敵は仰天ロボの相手ではない。

何しろ、この仰天ロボは俺のケンカ殺法をそのまま再現できる驚

異のシステムが搭載されている。

素人や武道家にケの生えた程度の素人や、まして悪の手先に負けるはずが——！！

『——ちいっ！』

ブンッ

ほう？悪のクセにやりやがる。

俺は仰天ロボの上半身をひねらせ、敵の鋭い一撃を避けた。やりやがる。

楽しいじゃねえか。

『本部！敵はかなりの実力を——え？』

敵の動きが止まった。

何油断してやがる！

ガキッ

敵の腕を掴むと、力任せに放り投げた。

いくつものビルを巻き込んで地面に倒れる敵ロボ

見たか！？

「うわああああっ！！」

「助けてえええっ！」

「逃げろ！俺にかまわず逃げてくれえええっ！」

「あなたあ！」

「娘を、娘を頼んだぞおおっ——ギャアアアッ！！」

『な、何が使われていると！？』

敵は俺と仰天ロボの強さに驚いているらしい。

『な、なんでそんなものが！？』

俺は動かない敵にとどめをさすため、敵に馬乗りになった。
コクピットのハッチは——ここか。

『おいっ!』

敵の声はせっぱ詰まっている。

今更、命乞いか？

遅いねえ。

英語で言うと、トゥーレイト。
遅すぎ。

『き、貴様! そのロボット、動力は何だ! ?』

ああん？

聞いて驚け。

俺も知らね。

『ふ、ふざけるな! マジメに答えろ!』

だから、知らねつつつてんだろお？

仰天号のコンピュータが「地上で仰天ロボのエンジンをパワーアップさせることが出来る唯一のエンジンなんとか」っていうからよ？
発電所行ってもらってきたんだよ。

『貴様か！？貴様が三原原発の――』

ああ。そんな所。

ったく。悪の組織もレベルアップしてやがって、自動小銃までも
つてたぜ？

全員血祭りだけだな。

『改良型超高出力小型原子炉を盗んで、それからどうしたという
んだ！？』

だから知らねつつてんだろ？

俺は物理は万年0点だったんだよ。

仰天号が全部やっていたからよ。

『そのロボットの動力の一部に使ってるんじゃないのか！？』

あー

そうかもな。

強ええだろ？

『ふざけるな！そのエンジンが爆発したらどうなるか考えたこと
はないのか！？』

正義のロボットがやられる訳ないだろが。

『広島型原爆の数千倍では効かないんだぞ！？そんな薄い装甲だ
けで囲うとは、爆発させるつもりか！？貴様、まさか巨大ロボで自
爆テロを！？やめろっ！貴様も人間だろう！？少しは人道というも
のを――』

うるせえよ。

雑魚は雑魚らしく、いい加減殺られやがれ！

まず、宣言通り、コクピットからてめえを引きずり出してっど――

ハッチをぶっこわし

『きゃっ！』

きゃっ？

女みてえな悲鳴をあげてんじゃねえよ！

メンタマえぐり出してやるんだから喜びやがれ！

そして、俺は敵のコクピットの中を見た。

そこにいたのは――

う、美しい――

長い黒髪

おびえきった顔

細い体

すべてが合格点

オールオツケーー！！

そうか！

彼女がヒロインか！

悪の組織にさらわれ、洗脳された挙げ句がロボットのパイロット
とは――

許せん！

待ってろ！

今、洗脳を解いてやるからな！

『洗脳？馬鹿なことを！貴様こそ、さっさと妄想から目を覚ませ
！』

かわいそうに……

囚われの挙げ句、どんなひどいことをされたのだろう。

俺はシートベルトを外し、コクピットから出ようとした。

きっと、ヒーローの俺の姿を見れば、それだけで洗脳は解け、そ
して二人は――

18禁のせ・か・い

『き、貴様！い、今、何を考えた！？』

そんなに恥ずかしがるな。

痛いのは最初だけだよ？

めくるめく快楽の世界はすぐそこさ！

『ヒッ——』

俺がハッチの操作ボタンに手を伸ばした瞬間

『いやあああああつ!!!!』

敵のあちこちから火線が走り、俺はコクピットの中でシェイクされた。

『来るな! 来るな変態!!』

ふっ。恥じらう声すらかわいい——

そう思った途端——

ガンッ!!

俺は仰天ロボの操作コンソールに頭をぶつけて気絶した。

気がつくと、敵の姿はなかった。

逃げられた。

ふっ。

次に出会った時には必ず助け出し見せる!

俺は誓いを胸に外に出ようとして、出来なかった。

何だ？この放射能警告って？

モニタに警告が出ていた。

「エンジンの一部が破損しました。放射線が漏れています」

「外気が致命的な放射能に汚染されています。速やかに退避してください。」

くっ……敵め！

俺に破れたからとはいえ、放射能をまき散らすとは！

仰天ロボの周囲では、罪もない人々が血を吐きながら死んでいく。
敵のせいだ。

許せない！

罪もない人々を死に至らしめるとは！

俺は、新たな怒りと共に、その場を離れた――

『致命的な放射能汚染地帯と化した〇〇市周辺ではいまだに立ち入り禁止が継続され』

『近隣の河川・地下水はすべて汚染されていることが判明し』

『政府は非常警戒態勢をしき、核テロリストとの戦いを宣言しました』

その後、俺は数回、敵と戦った。

なぜか、あの子はそれから出会わなかった。

きっと、監禁され調教されているに違いない。

必ず、必ず助けてやる。

幾度となく繰り返される戦いの中、俺は一つのこと気づいた。

それは、敵は俺が原発から持ってきた複雑なマークのついた部分（仰天ロボの装甲の一部）だけは決して攻撃しないことだ。

俺はそれを逆手に利用した。

装甲のあちこちにそのマークを書き込んだのだ。

（注…レントゲン室前に張られているあのマークのことです）

するとどうだ？

敵は戦わずに逃げ出す始末。

そうか。

このマークは「正義のマーク」だったんだな。

俺の知恵の勝利！

俺と真っ向から戦えなくなった敵も考えたようだ。

すでに悪の組織の支配下に入った政府
そして国連とその関連機関

これらが一丸となって、俺に戦いを挑んできたのだ。

あわれ。

悪の走狗と化した兵士達よ。

正義の鉄拳の元、やすらかに眠れ。

1ヶ月後。仰天号の中で目を覚ました俺は、久しぶりにテレビをつけた。

そこには、正義の味方、俺様の愛機仰天ロボが映し出され、そして、その下には――

『人類の敵 悪のロボット』

と書かれていた。

どうやら、悪の組織は、俺を逆に「悪」と決めつけることで人心の掌握に打って出たらしい。

「娘を！娘をかえせ！」

「あの子はまだ4つだったんだ！」

「僕は、あいつを倒すために自衛隊に入ります！」

「恋人の敵だ！俺が必ず殺してやる！」

テレビに出てくる役者が俺に憎悪の言葉を投げかけてくる。
下手な演技だ。

——そして、正義の味方から一転して、悪の組織の一員とされた俺の孤独な戦いが、幕を開けることになる。

第三話 無意味に怪人出現！

敵はいる。

相手の数だけは不足はない。

敵は巨大ロボも繰り出してくる。

だか、俺は不満だった。

なぜか？

簡単だ。

怪人がいないっ！！

そして、俺には必殺技がないっ！！

「師団本部！本部！敵は圧倒的火力で応戦しています！」

「第3中隊全滅！」

「戦力7割が壊滅！後退の許可を！」

あーっくそっ！

俺は胸の中でくすぶる怒りを丘の上に隠れている悪の犬へと向ける。

ズドンッ！

仰天号から見つけたレーザー銃の引き金を引く。

ドンッ！

まるで巨〇兵の攻撃さながらの一撃が丘を斜めに走ると、少し遅れて大爆発が起きた。

レーザーが命中して、なぜ地面で爆発が起きるか、よくわからない

い。

多分、それが「お約束」だからだ。

そう。

「お約束」は、この世のあらゆる物理の法則を越えるんだろう。
恐るべし、「お約束」！

俺は、「お約束」に敬意を表して、このレーザー銃に「お約束マグナム」と名付けた。

何故マグナム？

それも、お約束だ。

それにしても、敵は弱い。

マグナムとバリアだけで勝負がつかなくて、そんなのありか？

あーっ！

怪人出てこいっ！！

俺は収まらない怒りをこめて、空めがけ引き金を引きまくった。

まあいい。

敵は沈黙したことだ。

全く、買い出しの度に襲ってくるからたまったもんじゃない。

俺はマグナム片手に、人気の少ない個人商店へと入っていった。
おらババア！

命が惜しかったら、正義の味方に食い物と有り金、全部差し出せ
やコラ！！

「突如コントロールを失った米軍の核攻撃衛星が北京に墜落、爆発した件で」

「中国臨時政府は、これを米国による事実上の宣戦布告であるとし、米政府に宣戦布告を」

「たった今、中国政府はハワイ、東海岸へ向け報復の核攻撃を行ったと宣言」

あーっ！ かったりい！

目が覚めても面白くない。

敵に怪人がいないなんて、玉子のない牛丼だ！

偽モノだ！

偽物？

そうか……その手があったか！

俺は仰天号のメインコンピュータに相談することにした。

よっと……

翌日から俺がしたこと。

それは、俺を襲った悪の手下の死体を集めること。

元は自衛隊とか米軍と言われた連中。

近頃は、義勇軍というのも出始めているらしいが、関係ねえ。

正義の味方に刃向かうヤツはすべて悪の手先だ！

白旗は無視！

命乞いはもっと無視！

悪は滅ぶべし！！

それがね正義の味方の変わらぬ信条だ。

さて。

ほとんどの死体は原型留めていねえけど、仰天号は「それでいい」
っていつていたしな。

いわれた通り、200体ばかり集めてやったぜ。

あ、死体からは、金だろ？小銃だろ？金歯に指輪にブレスレット
に時計……とにかくもらえるもんはたっぷりもらったけどな。

おい。

仰天号、これ、どうするんだ？

何？その容器に入れろ？

ほらよ。

どぼどぼんっ——と。

モルグ顔負けの光景が、とても心地いい。

それにしても何だ？この容器の中のピンク色の液体。

仰天号によれば、遺伝子をどうこうする代物らしい。

——ま、俺は怪人が現れてくれればそれでいいんだけどな。

翌日、俺が悪の手下から奪った金目のモノを整理していたら、仰
天号から呼ばれた。

仰天号から渡されたのは200個のガチャで使われてそうなカプ
セル。

なんだ？

ふむ。これを、放射能に汚染された所へ放り込め？

そうすれば、怪人が現れる？

よっしゃあつ！

仰天ロボに乗った俺は、まず手始めに、この前あのロボットと戦
った場所、そして原発の関連施設へ。そして、アメリカと中国にば

らまいた。

こうして、数日待てば、怪人がわんさかと誕生するという。
よし。

それから俺の活躍が始まるんだ！

「突如、○○市内の放射能危険地帯から出現したなぞの生命体は、
周辺の住民を次々と取り込み、その数は膨大な数に」

「怪人の出現に対し、中国政府は北京周辺に戦力を集中している
模様」

「米政府は、東海岸一体を放棄、核攻撃により、謎の生命体を
焼き殺す作戦を開始すると」

ふっ。

俺はテレビを見ながらさわやかな笑みを浮かべていた。

テレビには、元が何だかわからないような異形の怪物達が映し出
されていた。

そう。

俺が仰天号に相談して、作ってもらった怪人達だ。

あの時、仰天号は答えた。

—— 一代限りですが、人間の遺伝子を操作することであたの
いう怪人を作成します。

俺はそれをやめさせた。

まで、仰天号。一代ってことは、仲間が作れないじゃないか。そ
いつ倒したら終わりだろうが。

—— それはそうです。

仲間を作れるようにしろっ！殺されたら仲間になるとか、何か機械を使って無限に仲間を作るとか！出来るな！？

——可能です。ボックスN03621に收容されている〇〇凸凹を、N06941に收容されている？？？？？を用いて複製、使用します。

よくわからないが、頼む。

そう。

怪人達は、許せないことに、殺した人間を仲間にする力がある。しかも、悪の組織はそれをさらに確実なものとすべく、なんと、怪人のミュータント製造プラントを建造、各地で怪人を量産している！！

なんてことだ！！

それを知った俺は、怒りのあまり、拳を壁にたたきつけていた。

許せない！

罪のない人々を殺し、怪人にするなんて！

俺は怪人を倒し、悪の組織の陰謀をくい止めるため、腹に巻いたサラシにマグナムを突っ込むと、仰天ロボの待つ格納庫へと向かった。

第四話 こういふこともあります

テレビを見ていたら、子供が殺されたという。

しかも親に。

イヤだね。

殺されるくらいなら親殺すね。俺なら。

そういえば、戦隊モノで、子供っていったら、お約束があったなあ。

よし。

俺は仰天号に、日本で一番金持ちの子供が通っている幼稚園を調べさせた。

「聖エクセレント学園付属幼稚園」

ここだ。

政治家、官僚、実業家の子供や孫が多数通うお坊ちゃま幼稚園。

ふふっ。

ここが狙われれば……

俺は用意した怪人達を従え、バスが来るのを待ちかまえていた。すると？

赤信号で停車したバスに乗り込む二人組が……

何だと!？

俺様のヤマをジャマするとは！
どこの命知らずだ！？

「う、動くなあ！」

「て、抵抗したら、こ、殺すからな！」

震える手で両手で包丁を握りしめるのは、中年の坂はるかに越えた男二人組。

あーあ。子供達、泣き叫んでるよ。

「わ、悪く思わないでくれ！」

「お、俺たちは〇〇市で財産も家族も失って、政府の保護も受けられないんだ！い、生きるためには、金がいる！だ、だから――」

「な、仲間に金を渡したら自首する！頼む、殺すつもりなんてないんだ！だ、だから――」

けっ。

犯人まで涙ながらに何やってんだか。

つまんねえ。

おーお。

警察が到着だ。

俺はマンホールに怪人を隠すと、そのまま通行人のフリして様子を見ることにした。

バスを十重二十重に取り囲むパトカー

おや？

園児達が妙に落ち着いているな……

「先生、この人達、可哀想な人たちなんですよ？」

「そ、そうよ。この前、悪いロボットに大切な人たちを殺されたり、大変な苦労されてきたのよ」

「じゃあ、正義の味方に助けてもらえる人たちなんだ」

「そう。だから、正義の味方が来るまで、この人たちを、みんなで護ってあげましょう」

「はーいっ！！」

「ほ、保母さん……」

「私も、恋人を、あのロボットに殺されました」

「！！」

「生活だって、あのロボットのせいでめちゃくちゃです。あなた達のやっていることが正しいとは思いません。でも、だから、私――」

「す、すまない……」

警察の説得開始。

犯人の反撃

何？

〇〇市被災者の生活の保障？

被災の後、市民が路頭で苦しみながら死んでいくのを政府が黙ってみていくとは何事かだと？

子供を殺すつもりはないだあ？

被災者へせめて食べ物と住む所を与えてくれ？ざけんな。

それさえ政府がすぐに実施してくれれば、子供達は解放する？

甘えこといつてんじゃねえよ。

一人か二人、ぶっ殺して金要求しろよ。

要求がのまれなければ、10分ごとに子供一人殺すってさあ。

おい。警察。何止まってんだ？

おいおい。

警察官が泣いてどうするんだ？

おい、マスコミ。

『彼らの主張をみんなで支持しましょう！』だと？
悪を助長させるようなこと言ってるんじゃない？

1時間後

……おいおい。

市民が食べ物集め出したよ。

何！？

〇〇市避難民を助けよう募金の開始だあ！？

よお、マスコミ……

はあっ！？

国民が〇〇市民支援を遅らせている政府に怒っている！？

政府が臨時閣議で支援開始を決定！？

なんだこの異例のスピードは！？

……おい、警察。

何！？

包囲網を解くから、すぐにバスから出ろ！？

子供を連れていなければ、追跡しない！？

ふざけんな！

悪即斬が警察の基本理念だろうが！

っーか、お前ら一体、どうしちゃったの!?

やべっ!

犯人が出てきたよ。

子供達、手を振っているよ……ははっ。

このまま生かして返すほど、俺は甘くねえっ!!

変身して俺は、犯人をバスに突き返した。

子供達は大泣きだ。

ふっ。さすがに怖かったんだな。

だが、正義の味方が来たからには大丈夫だ。

さあ! 幼稚園バスジャックはなあ!

お前らみたいなチンケなジジイの仕事じゃねえ!

怪人の仕事だ!

お前ら、今すぐ怪人になってやりなおせ!

俺は腰のホルスターから注射器を取り出し、無造作に犯人の腕に突き立てた。

「や、やめろおおおっ!」

男達が断末魔の声を上げて動かなくなる。
安心しろ。

新しい生命として生まれ変わるんだから。

「き、貴様のせいで、家族は、職場のみんなが――!」

「やめてえええっ!」

「その人達、悪い人じゃないんだからあ!」

泣きわめく子供達。

こいつら、こんな短期間で子供達を洗脳するとは――

おいしい奴らを怪人化させたかもしれないな。

ま、いいか。

ほら――

うわっ。

使ったの初めてだけど、ここまでグロいとはな。

人間の皮膚を突き破って赤黒い肌が見えたかと思ったら、表現で
きないような怪人のできあがり。

よし。

これで幼稚園バスジャックが始ま――

あれ？

お、おい！

子供達はどこだ？

身代金、1人1億だぞ？

30人だから、30億のボロもうけなんだぞ？

みると、俺が怪人の出現に見とれている間に、後ろの非常ドアか
ら、警察が子供達を逃がしたらしい。

くそっ！ 狗が！！

しかも警察の野郎！

子供達がいなくなったと知った途端、

「撃て撃てえ！」

「殉職した仲間の仇！ 殺せ！」

血走った目で撃ちまくり。

……ふん。

38口径なんてマメ鉄砲で俺が殺されるわけないだろうが！
無視！

俺は怪人をバスの外へと放り投げ、バスを出た。

警察は誤射をおそれて発砲を止める。

さて。

俺はこの幼稚園バスジャックして怪人を倒して、正義の名をあげるぜ！

組み合い、殴った後でお約束マグナム！

……いけね。

変なポーズで撃ったのがまずかった。

弾はビルの屋上の広告に当たっちゃった。

ほんと、俺、まっすぐ撃ったのに、なんであそこに当たる？
さすが、俺。

しかも、広告が落下した先には、幼稚園児達が――
あーあ。

短い人生だったな。
生まれ直ったらもっとマシな世界に生まれてこいや。
南無阿弥陀仏。

ん？

俺がボロボロにした怪人、なんだと！？
幼稚園児達の上に覆い被さっただと！？

そう。

動くのもやっとなのはずなのに、子供達を広告から護ろうとして、
その上に覆い被さったんだな。

バカが。

ほらみろ。広告破片の直撃で体中ボロボロだ。
けっ。

やだね。

怪人の考えがわかんねえ。

幼稚園児が怪人の下から逃げ出してくるよ。

――ま、怪人は死ななければ番組終わんねえから、さっさと死
ね。

お約束マグナム！

悪は滅び去った。

だが、洗脳は解けなかったようだ。

俺は、あの幼稚園児達に、居合わせた市民からまで投石を受けた。

「おじちゃん達を返せ！」

「〇〇市民の恨みだ！」

「死んでしまえ！」

悪の組織の洗脳はかなり強力だ。

俺は力だけでなく、この方面での対策も考えなければならない時に来ているようだ。

とりあえず、パトカーめがけてマグナムを乱射して、俺は戦場を後にした。

数日後

『政府は、〇〇市からの避難民への救済が遅れていたことを正式に謝罪し』

『市民ボランティアが避難民救済にむけ続々と』

『〇〇は期間工として避難民の希望者500人を雇用する計画を発表し』

うん。

やはり、正義を信じる市民は違う。

俺に投石するなんていう悪の市民とは全くな。

『本当に、あの二人の冥福を祈るばかりです』
ん？

『彼らは、自分たちの犠牲を覚悟の上で、仲間を助けたかっただけなんでしょう。子供達が危険にさらされたことは、親として許せません。しかし、市民として、彼らの行いをみる場合、話は別です』
『親同士で少しでも役立ててもらおうと、寄付を集めています』

『子供達も、あの悪の怪人を倒すために立派な大人になると誓って』

『英雄ともいべき行動の末、怪人としての死を強いられた彼らの、人としての冥福を、また、あの憎むべき悪の怪人がこの世から消し去られることを祈って止みません』

『憎むべき悪の怪人』？

あ、あいつらか！

俺がマンホールに隠したあの2体！

そうだな！

あいつらか！

俺はあいつらを始末すべく、仰天号から飛び出していった。

第五話 移動手段は？

敵と何度か戦っていて気づいたことがある。

俺は正義の味方だ。

なのに……

『○○うゝっ。○○うゝっ。終点○○。どちら様もお忘れ物のないよう』

何で俺は、移動にバスだの電車だの使わなければならないんだ？

何かが間違っている。

そうか。

乗り物だ!!

正義の味方は、必ず格好いい乗り物に乗っていた!!

俺にはそれがない!

これは、盲点だった……

反省した俺は、駅前に止めてあったママチャリのカギを壊してサドルにまたがり、秘密基地へと戻った。

さあ。出撃だ。

俺の前にあるは、何の変哲もないママチャリ。
電気自転車っぽくサドル下のフレームに四角いカタマリがついている。

「そよかぜ号」と書かれているのがカッコいい。

さっそくこいつには「仰天チャリマーク1」と名付けてやろう。
俺はチャリにまたがると、さっき察知した悪の組織と戦うため、
基地を後にした。

キーコ キーコ

ううむ。仰天号め。油が切れているぞ？

整備不良とは何事か？

うむ？坂。

キーコ キーコ

三段変速ギアをゆるめてと。

あーっ。

なんか疲れてきた。

普通ならこうなるはずだ。

だが！

スーツの補助パワーをみよ！

車ですらぶっちぎりだぜ！

さすが「仰天チャリマーク1」だ！！

ふう。

鈍行で2時間の距離をわずか30分。こども速いと気分がいいな。
さて。

待たせたな！

悪の手先め！

この俺様が相手だ！！

叫びながら、俺は敵の目前へチャリを滑り込ませた。
ふっ。かっこいいぜ!!

敵は登場した俺に動きを止めた。
ふふん。

驚きのあまり、言葉を無くしたか!

と思ったら――

「ぶはははははっ」

「ギャアッハッハッハア!!」

みんなが俺を指さしながら大爆笑。
な、何が可笑しい!?

「だ、だって、よく見ろよ!」

「ま、ママチャリにその格好でまたがるなんて、お前、何考えてるんだ!」

お約束マグナムっ!!

帰り、「仰天チャリマーク1」は突然のパンク。

敵の妨害工作か!?

しかたない。

機体を放棄した。

短い間だったが、ありがとうな。相棒。

しょうがない。

スーパードライのように、派手なバイクとするか。

俺はバイク屋に乗り込み、大型バイクを頂戴した。

数日後

おお。仰天号、出来たか？

うむ。

竹槍マフラーがまぶしいぜ。

さあ。今日も楽しく出撃だ！！

爆音をとどろかせながら突き進むぜ！！

「前のバイク、停まりなさい！！」
ん？

マップか。

うるせえ。消えろ！！

ハンドル横のボタンをポチツとな。

ヴオオオオオオ！！

後部に仕込んだ30ミリガドリング砲が火を噴いた。
ふふっ。

パトカーはふ・ん・さ・い。

中の狗もミンチでは済むまい。

誰が切符なんて切られるものか！！

幸先は上々だ！！

ラジオでも聞か。

「昨日、凸凹市胃簿寺で発生した暴力団員大量殺害事件の犯人は
いまだ逃走中」

「警察は現場から逃走した大型バイクに乗った人物が例の核テロ
リストである可能性が」

「中国臨時政府は、怪人との戦いの中で犠牲者が2億人を越えたが、党幹部関係者は無事なため、全く痛痒を感じないと発表」

さて。

高速道路の料金所を突破した俺は、敵と遭遇した。

仰天チャリを放棄せざるをえなくしてくれた連中の残党だ。

仰天号が調べた限りだと、この連中は政府と手を組んでいるらしい。

確か、NPOとか何とかいう組織だ。

ご丁寧なことに5人、色違いだ。

……むかつく。

悪は潰すのが俺の礼儀だ！

俺はバイクのアクセルを全開にすると、敵に突撃した。

おらあああつ！！

見よ！！

新・必殺技

仰天バイクひき逃げアタック！！

タイヤの間から金属のツメが飛び出し、全てをミンチにする禁断の一撃だ！

昨日、ヤクザの葬式に乗り込んでチンピラ100人血祭りに上げ

た実績済みはダメじゃねえ!!

「ぎゃあああああっ!!」

グシャッ!!

黒を綺麗にひき殺したあと、ボタンを操作して、バイクの両脇にビームサーベルを展開する。

これが……これがっ!!

新・必殺技 その二

仰天バイク当て逃げアタック!!

「た、助けてえ——ぐえっ!」

「やっやだあ!!——ぎゃあっ!」

逃げまどう黄色とピンクがこれで真っ二つ。

残るは青と赤だが……

「ち、ちよつと! あんた、何するんだ!!」

赤が両手を振りながらそう叫ぶ。

はあ?

テメエみてえなニセ者を抹殺するだけだよ!
こんな風にな!!

俺はバイクの武器をいくつか作動させた。

「うわあああっ!」

赤はとつさに地面に伏せて避けるが、反応が遅れた青は上半身にレーザーの直撃を受けて四散した。
ふっ。わかったろう？

「あ、あんた、俺たちがなんだかわかっているのか!？」
あ？

悪の手先。

正義の味方の偽物。

「ち、ちがう!!俺たちはJ A C Aだ!」

あ?どこかで聞いた気が……。

ああ。そうか。

J A C A 日本アクション株式会社だっけ?
へえ？

ってことは、撮影か？

「そ、そうだ!新作のコイズミレンジャーの撮影で!」

なんか、ムカつく名前だが……で？

赤一人で撮影か？

他はどうした？

「あ、あんた、自分が何したかわかっているのか!？」

……あたりを見回す。

悪の組織と思っていたのは、実は撮影スタッフってことか？

あーあ。

死屍累々。

機材はぐちゃぐちゃ。

……こりやまずい。

おい。赤。

「な、なんだ？」

死んでくれ。

俺はお約束マグナムで赤を吹き飛ばした。

生存者から情報が漏れることが心配だから、念のため、バイクに仕込んだ毒ガスを散布することを忘れない。

うん。緻密だね。俺。

数日後のことだ。

コイズミレンジャーが無期限で撮影停止になり、アベレンジャーの撮影が開始されたという。

政府の肝いりらしいけど、なんだろう？ ずっとごく見るのがイヤだな。どうせなら、俺の活躍を番組化しろよな。

俺は撮影を潰すべく、制作会社の住所を調べることにした。

第五話 移動手段は？（後書き）

これ書いていた頃、阿部政権発足……次がどうなろうが作者の知ったことではありません。どっちがやろうが、この日本と世界がよくなるなんてありませんからね……それでいいのか！？それでも与党か！ホント、頼むよお……。

第六話 必殺技は？

『ラスベガス防衛ラインの陥落により、すでに北米大陸の3分の1が怪物の支配下に』

『中国臨時政府は、南京、重慶といった主要都市を放棄』

『怪物がフィリピン、東南アジア各国でも確認され、各地で甚大な被害が』

怪人は生まれた。

それはいい。

だが……

お約束マグナムっ！！

いろいろポーズつけたり、マグナムをぶっ放す時、いろいろ叫んでみても、今ひとつ盛り上がらない……

そう！

ヒーローに必須のアレが、俺にはない！

これではカッコがつかん！！

なければ作る！！

そのためにも、まずは研究だ！！

マグナム片手に、俺は近くのビデオレンタルショップに殴り込みをかけ、戦隊物のDVDを根こそぎいただいてきた。

無論、レジをまるごと頂戴することを忘れてはいない。

レジをバールでこじ開けながら、数々の戦隊物のそのシーンを見る。

……そうか。

1. 原理理屈はどうでもいい。というか、俺がわからん。
2. とにかく、その一撃で勝負がつく。何度もやるの、面倒クセ。
3. 絶対に一撃必殺。

おい。仰天号、こういうの、やりたいんだけど……なに？ 出来る？

よし！ じゃ早速……

仰天号が俺のスーツを改造しまくるのを、俺はレジから取り出した現金を数えながら待つ。

……ちっ。あのレンタル屋、思ったほど金がなかったな。

お？ 出来たか？

俺のスーツはなんだか一変していた。

それまではシンプルなレッドのスーツだったのに、どっちかっていえば、宇●刑事のスーツをフルアーマー化したような、そんな感じだ。

いいねえ。

うん。いい。

俺はそのスーツの出来栄えに満足しつつ、何度も頷く。

で？仰天号、何を取り付けてくれたんだ？

……は？

対ABC兵器防御？

対中性子防御？

対熱線防御……まで、仰天号。俺のアタマがついていかない。

とにかく、アレがすさまじいから、その対策ってことかなるほど。

手に入れば使いたくなるもの。

それが人殺しの道具。

ふふっ。怪人ども！正義の力、今こそ味わわせてやる！！

俺はローカル線に揺られること数時間かけて東京へとやってきた。東京の賑やかさは、山の中、しかも地下数百メートルに隠れた生活では考えられないほどだ。

だが、そこに住む人間は腐りきっている。

腐っているからこそ、修正が必要なのだ！！

そう信じる俺は、風俗をハシゴしたり、家出少女を人身売買にかけたり、暴走族を狩ったり、ヤクザの組事務所を襲撃するなど、正義を執行することを忘れていない。

正義の見返りは、カネだろ？チャカにクスリにドス……うん。30億はくだらねえな。

元・どこぞの組長のモチモノとはいえ、正義の味方はベントを転がさねばサマにならない。

「昨夜、歌舞伎町で起きた乱闘事件の死傷者は25人。犯人はいまだ逃走中」

「暴走族160人が死傷した深夜のテロの犯人からの犯行声明はいまだなく」

「指定広域暴力団丸丸組は、事務所襲撃を受け、角角会事務所を襲撃。民間人を巻き添えにしたこの抗争による死傷者は、すでに100名近くにたっており」

「事態は全面戦争の様相を呈しています。警視庁は警察庁と連携し、警備を強化していますが、本日正午、繁華街への民間人の立ち入り自粛勧告を」

いやだねえ。

やはり、正義の味方が立つ時だな。

俺は、ベンツをあの場所へ向かわせた。

あの場所。

そう。俺が悪の巨大ロボットと戦い、今では怪人の巣窟と化した
〇〇市だ。

市民10万人がすでに怪人の餌食となっていると聞く。

市へ通じる道は全てフェンスで閉鎖され、自衛隊の戦車がフェンスの向こう側へ向け、砲を向けている。

罪もない市民を巻き添えにした悪の組織がフェンスの向こうにいる！

俺がその野望を阻止してみせる！！

ベントは24時間営業の複合商業施設に止め、フェンス側まで来た俺は、腕のブレスレットを作動させた。

見ろ！

正義の味方の勇姿！！

「ひっ！」

近くにいた自衛隊員が腰を抜かしている。
すまん。おどろかせて。

だが、安心しろ。

貴様の仲間の敵は、俺がとる！！

「ほ、本部！本部どうぞ！例の、例の悪党が出現しました！こ、攻撃の許可を！」

グシャッ！！

あ……すまん。力が数百倍になってるの忘れてた。

軽くなでたつもりで、アタマ、潰しちまった。

ま、いいか。

フェンスを破壊して……何！？この一帯、地雷原か！？

えーい！自衛隊め！なんてことしやがる！！

マグナムを乱射して、自衛隊を吹き飛ばす。

地雷程度でどうこうなるほど、このスーツは安くねえ!!
おらあっ!!

一気に市街へ行くぞっ!!。

うほっ。

いるいる。

表現に困るような怪人達がうじゃうじゃ。
目移りしちまうねえ。

俺は、怪人を殴り、蹴り、マグナムで殺しまくった。

……いけね。違う違う。

俺がここに来たのは、そういう目的じゃねえんだ。

とにかく、俺は怪人が一番たむろしている所を探しだすことにした。

どうやら、駅前のロータリー周辺が一番らしい。

よくわかんねえけど、俺の存在を知ったあちこちから怪人が集ま
っているらしい。

1時間後

ロータリーは怪人達で埋め尽くされている。
頃合いだ。

すぐつぶれても面白くねえから、怪人製造プラントは外してつと

……

俺は必殺技の準備を始めた。

「必殺！」

右手を挙げ、このキーワードを叫ぶと、俺の左手には巨大なシールド、右手には3メートルはあろうこれまた大きなバズーカが出現した。

これが俺の必殺技その1！！

バズーカの照準を、怪人達のと真ん中に設定。

俺は必殺技の決めセリフを叫びつつ、バズーカの引き金を引いた。

「ソロ○ンよ！私は帰ってきたあー！！」

『○○市で突如発生した核爆発は』

『政府は核テロリストが準備していた核爆弾が、何らかの原因で爆発したものと』

『この爆発により、周辺都市の放射能汚染は深刻なレベルに達しており』

『政府は爆発前、市街地へ進入した謎の人物との関連について』

目の前に広がる焼けこげた更地――

俺は今、かつて都市だった所に立っている。

俺の必殺技「アトミックバズーカ」により、都市は悪もろとも消滅した。

都市こそが、諸悪の根元。

そう。悪の母と共に、悪は消滅した。

……怪人製造プラントは無事だから、怪人には事欠かないはずだ。そう。

俺が倒したのは、悪のほんの一握り。

全ての悪を倒さない限り、俺に本当の安らぎは訪れない。

本当の安らぎ、真の平和が訪れるまで、俺は戦い続けるだろう。

第六話 必殺技は？（後書き）

一応、これで形だけお終いです。続きのネタとか評価とかコメントで書いていただければそれを元に書ける限り書きますけど。評価、よろしくです♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6878c/>

正義の味方は極悪人！？

2010年10月10日02時37分発行